超伝導利用の異物検出装置開発

アドバンスフードテックと豊橋技科大が共同で

0.5ミリ以下でも検出

食品メーカーなど 幅広い業種に拡販

2005年（平成17年）
1／19
水曜日

食品・医薬品業界向け機械開発・販売のアドバンスフードテック（本社豊橋市西幸町浜池三三三ノ九、鈴木周一社長、電話0532・29・9033）は、豊橋技術科学大学と共同で、超伝導センサーを活用した超高感度の異物金属検出システムを開発、このほど実用化し、販売を開始した。超伝導センサーの応用製品は世界初。既存の検査装置が0・5ミリ以下の金属異物を検出できないのに対し、同システムでは直径0・5ミリ以下の鋼球まで検出可能。食品メーカーなどを中心に幅広い業種に拡販していく。

（豊橋・三ッ口洋一）

鈴木周一社長

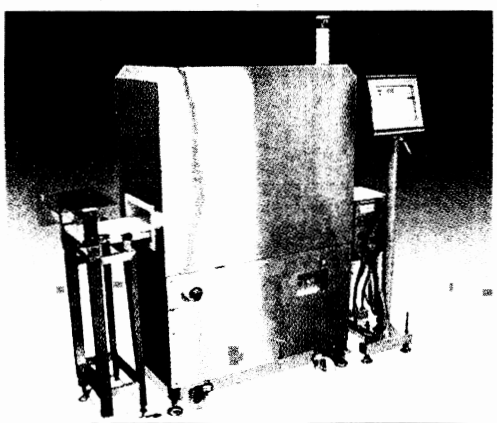
アドバンス社は食品・医薬品業界向けの各種先端技術開発を手がける技術系ベンチャー。今回開発したシステムは、文部科学省の指定を受け、新規事業等の創出、研究開発型の地域産業等の育成をめざす「都市エリア産学官連携促進事業」の成果によるもの。

超伝導磁性金属検出システムは、ベルトコンベア上を移動する検査対象物を磁化し、その磁気をセンサー（SQUID、特許出願中）で読みとる。

豊橋技科大の田中三郎教授が開発した超伝導体を使用した検査装置は、大きさ、包装状態、性状（冷凍、水分、塩分、温度）の影響をほとんど受けないのが特徴。食肉に混入した注射針、アルミ缶・アルミ包装食品・医薬品の検査など、応用範囲は広い。価格も本体は二割前後高くなるが、維持費は年間三十万円程度で済むため、コストメリットも大きい。

検査対象物のサイズによるが、価格は小型機で六百万―八百万円。小型機は医療機関など、大型機は量産工場ラインでの運用を想定している。

すでに、食肉加工業、餅・清涼飲料・医薬品メーカーなど約七十社が試験を終え、小型一号機が一月末、大型一号機が三月上旬に完成する。二月台程度の販売を見込んでいる。



同社が開発した小型検査機

八神製作所が中期経営計画

3年後売上高800億円へ

介護予防機器を拡販

医療機器販売大手の八神製作所（本社名古屋市中区千代田二ノ一六ノ三〇、上村茂社長、電話052・251・6671）は、二〇〇七年十二月期を最終年度とする中期三カ年経営計画を策定し、スタートした。介護予防関連機器の拡販や、首都圏での営業強化、中部圏外のM&A（企業の合併・買収）推進―などが柱。最終年度の売上高は前期（〇四年十二月期見込み）比16・1％増の八百億円、経常利益は同38・5％増の十八億円を目指す。

〇四年十二月期は、売上高、経常利益ともに過去最高を達成する見込み。今期は、経営体制を一新。「静岡県以東のシェアを拡大し、関東各県でナンバーワンディラーを目指す」（上村社長）とし、収益拡大に弾みをつける。

介護保険法改正をにらんだ健康開発機器や、介護予防機器の販売を今期から本格展開する。来期中に、福祉用具のレンタルと販売を行う「ヤガミホームヘルスセンター」を分社化し、〇七年十二月期中に持ち株会社へ移行する方針。

上村　茂社長

M&Aは、来期に首都圏で一社、最終年次に中国・四国地域で一社実施する計画。〇七年十二月期には、二十四時間年中無休体制を確立する。

営業面では、画像診断機器や免疫治療機器の受注拡大に努めるほか、介護用品レンタル事業を確立する。介護予防機器販売は、今期中に三十施設での受注を目指す。

拠点網の整備では、今期中に首都圏の営業所を拡充するほか、大府と春日井に営業所を開設するなど、三年間で七営業所を新設する。ホームヘルスセンターは、今期中に大府店を開設するなど三店舗を開設し、十一店舗体制とする。

拠点開設などに伴い、最終年度の社員数は、昨年十二月末現在と比べ、九十三人増の六百九十五人を目指す。

きょう
2 森精機が刈テクニカル
6 小笠原工業がコークスの輪
8面 丸利玉樹利

二十三日には、ホテル日航豊橋で「都市エリア産学官連携促進事業」の成果発表会で、他の開発事例とともに、発表や展示を行う予定。

同社では、「たった一度の事故で数十億円のダメージを被った食品メーカーもある。大手企業ほど検討には前向きだ」（鈴木社長）として、年間十